

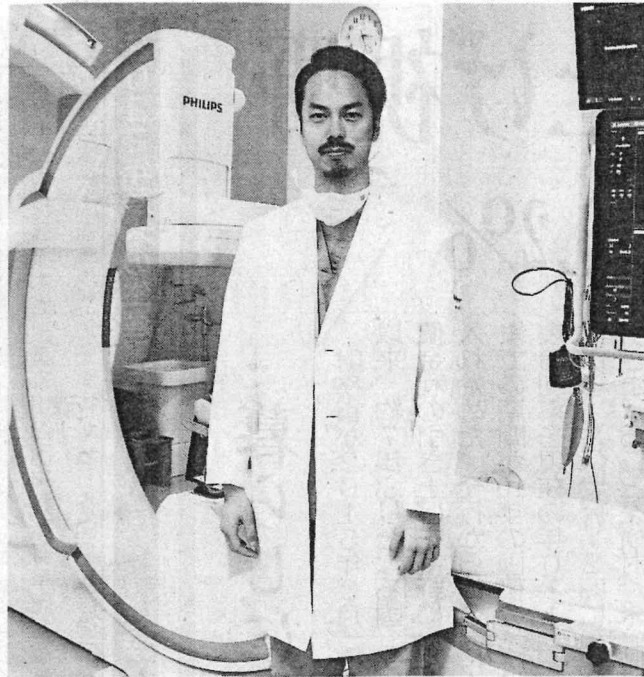
1秒単位で早く治療を

ひと模様

柏市の名戸ヶ谷病院(同市新柏2)が昨年10月開設した脳卒中センターのセンター長に同年8月就任した。脳卒中患者の治療は時間との勝負。1秒単位で早ければ早いほど後遺症の程度が小さくなる。救急患者の受け入れから手術開始までの平均時間を、従来の53分から29分に縮めるなど治療体制強化に取り組んでいる。

柏の名戸ヶ谷病院脳卒中センター長

井上 靖章さん (33)



大阪府出身。京都大学医学部を卒業し2013年4月から同病院で勤務。米国のハーバード大学の病院で最新のカテーテル手術などを経験し帰国後、整形外科と脳神経外科が2枚看板の名戸ヶ谷病院で、脳神経外科部長、手術のエキスパートとしてメスを握るようになった。30代前半で診療科の部長に就くのは珍しいという。

センター開設に当たり、24時間のホットラインや救急患者到着前のスクランブル体制などを整えた。専門医師

が24時間体制で救急からの連絡を直通電話で受けるほか、脳卒中が疑われる場合は検査や手術室など関連部署が受け入れた時の流れを速やかに確保し待機する体制を取っている。

昨年11月に同病院が受け入れた患者4660人のうち、脳血管疾患関係は1373人。ホットラインで連絡が来る重症者は月30件以上。井上医師の手術を見ようと、若い医師が全国から足を運んでいる。

脳神経外科の医師は現在6人で4月以降は8人に増える予定。急性期の治療だけでなく回復期のリハビリでもノウハウのある職員を配置。地域の診療所と連携し退院後の後遺症や再発防止の相談に乗っている。

「脳卒中は専用のケアが必要。世界最高水準を目指し地域の人に選ばれた病院にしたい。医療従事者が安心して働ける環境づくりにも力を入れたい」と意気込む。